

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和３年度採択）

事後評価（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評 価
2021-2	カメラ画像および複数の観測データを融合した次世代交通計測手法に関する研究開発	東京理科大学 准教授 柳 沼 秀 樹	B
＜研究の概要＞ 道路ネットワーク上の常時観測データを取得可能とする次世代型交通計測システムの構築を目指し、AI 解析、カメラ画像を活用した交通移動体の高精度検知手法、複数の交通データを融合した交通量等計測データ生成・補正手法の開発に取り組むことを目的とする。 ＜事後評価結果＞ ・現場からの必要性の高い研究に対する成果・システムが構築されたと考える。OD の結果のところあまり見えなかったのもので、そのフォローが必要と考える。 ・実用的な研究成果を挙げられ、モニタリングシステムは実務に適用可能であると思われる。一方で、アクティビティデータ生成モデルとその他の分析の統合について明確でないように思われる。 ・複数観測データの融合による交通量データの生成・補正は更なる検証が望まれるが、カメラ画像の AI 解析による交通量観測における精度向上、観測範囲拡大により適切な研究成果が得られている。 ・国交省の CCTV カメラで利用できる「交通計測特化型 AI モデル」を構築された点は評価できる一方、一部の研究テーマにおいて規模縮小があったので、引き続き研究に取り組まれることを期待する。 ・今後のわが国の交通調査を大きく変革しうる成果を挙げている。テーマ3の内容を変更（縮小）したことについては、やはり、課題が残ったというべきであろう。 ・複数の観測データを融合した交通量等データの生成・補正手法の開発の基礎となる、AI 解析とカメラ画像を活用した交通移動体の検知において高精度の検知が実現していることから、目標は概ね達成され、有意義な成果が得られたと言える。 ・非常に高度で有用な成果が得られている。次世代交通計測システムの構築という大きな目標に向けては、構築システムの更なる改良、精度の向上、他データとの融合に向けた取り組みが期待される。 このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。 ＜参考意見＞ ・実装に大いに期待している（公表されることになれば、なお実務において有益であると考え）。 ・交通計測特化型 AI モデルについては、現場での実装を見据え異なる条件下でも一定程度観測精度を確保できる手法を検証するような研究が望まれる。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 50 回新道路技術会議において審議したものである。